

志布志麓



歴史



志布志麓の魅力を全6回(隔月)にわたりお伝えします。

国道220号線から県道3号線をカギ型に曲がってたどり着く、地頭仮屋跡を中心に広がる蔵之馬場、沢目記馬場、犬之馬場、小淵馬場、西谷馬場などが志布志麓です。

第二回 麓馬場は歴史ある街道

志布志「麓」は、前川西岸に広がるシラス台地が雨水で削られてできた地域です。農業には不向きな地でしたが、複雑な地形と豊富な湧水に恵まれました。島津藩の志布志「麓」成立の時期ははっきりしませんが、この地域は島津氏統治(1576年)以前から水門(港)として重視されていました。戦国時代には地形を生かして内城や松尾城などの城がいくつも築かれました。志布志が大隅半島の付け根に位置し、

海路を通じて文物が流入する重要な地域だったのです。

交通の要衝だった志布志「麓」の「馬場」といわれる道路は、地頭仮屋跡(現・志布志小学校)を中心にシラス台地に沿って放射状に走っています。これらの道路は、都城、餓肥、福山などに通じる歴史ある街道の名残です。幕藩体制に移行了した頃、薩摩藩では外城制度がスタートしました。これが「麓」の始まりです。麓の郷士たちは名字帯刀を許されましたが、藩から貰う扶持(俸禄、給料)は少なく、多

くは「半農半士」。普段は農業に従事して家計を支えていたようで、土佐の農兵制度「一両具足」に少し似ています。この半農半士の郷士たちは、いったん有事の際は地頭の指揮で武器をとって出陣。薩摩の軍事力を支える大きな力になっていたようです。県内各地にこうした武士集団の居住地「麓」が100か所以上ありました。幕藩体制初期に、よりはやくに地頭が置かれたのは、海路が盛んだったからでしょうか。写真・文：東郷恵子(志布志麓住人、落語大好き)



左手前・志布志地名発祥の地、右岸は麓集落



犬之馬場(志布志小前)



小淵馬場



■問い合わせ先：教育委員会 生涯学習課 文化財管理室 指定文化財係 Tel：472-1111 (内線 343)